

横浜市インフルエンザ流行情報 17号

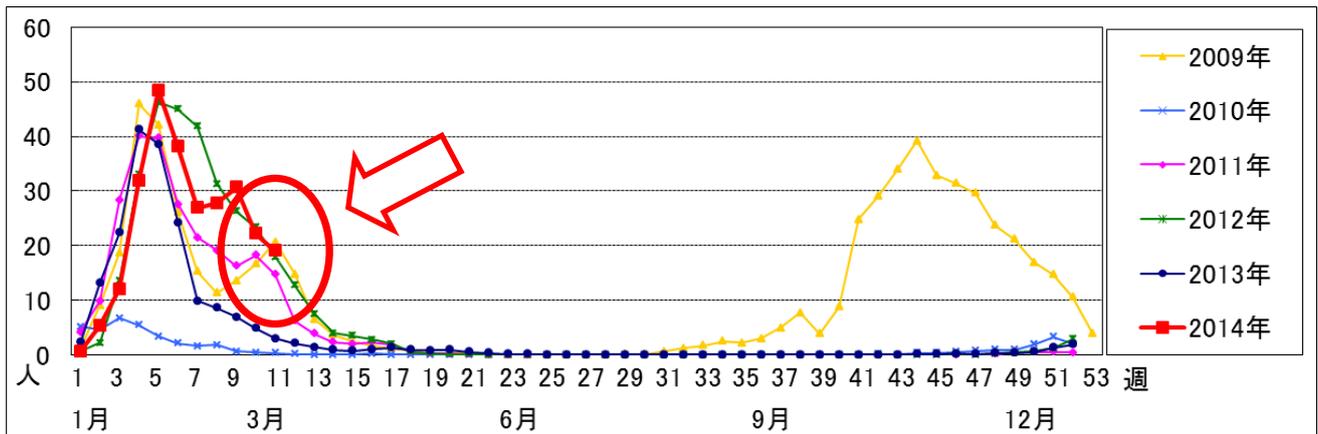
横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

《トピックス》

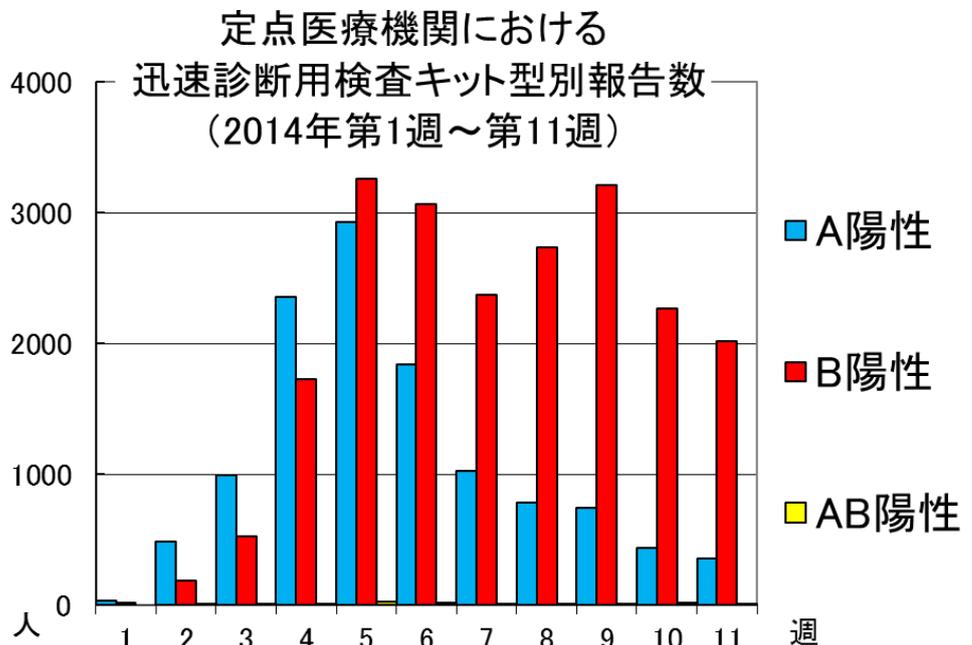
- **2週連続で報告数が減少**していますが、**いまだ流行警報解除基準値（定点※¹あたり10.00）を大幅に上回っており、引き続き注意が必要です。**
- **感染予防や早期受診などの対策※²が重要です。**

※1 定点・・定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内152か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。
 ※2 [インフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

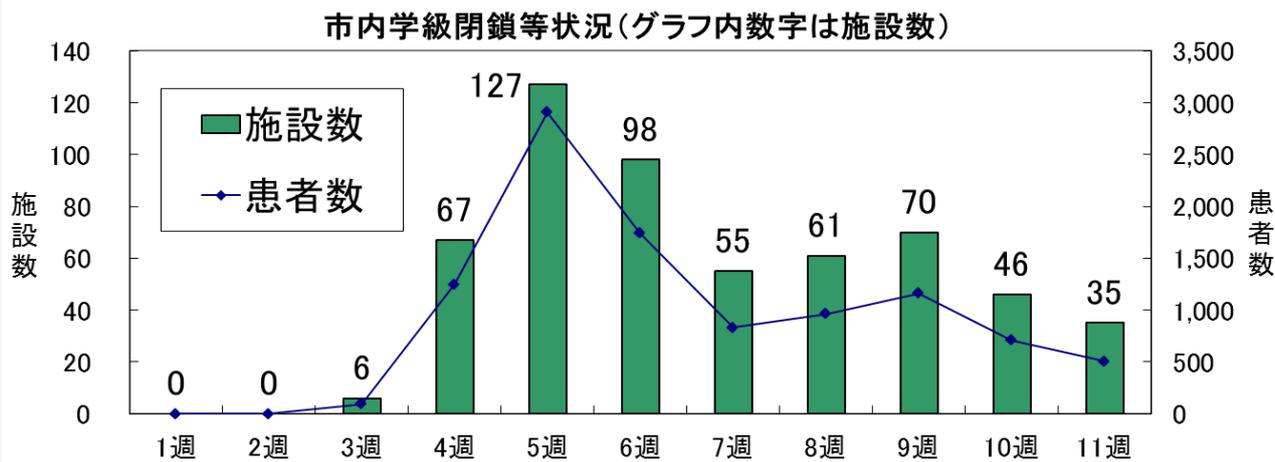
1 **市内流行状況:**市全体の定点あたりの患者報告数は、第11週(3月10日～16日)**19.07**と、2週連続で減少しましたが流行警報の解除基準値(定点あたり 10.00)を大きく上回っており、もうしばらく流行に対する注意が必要です。



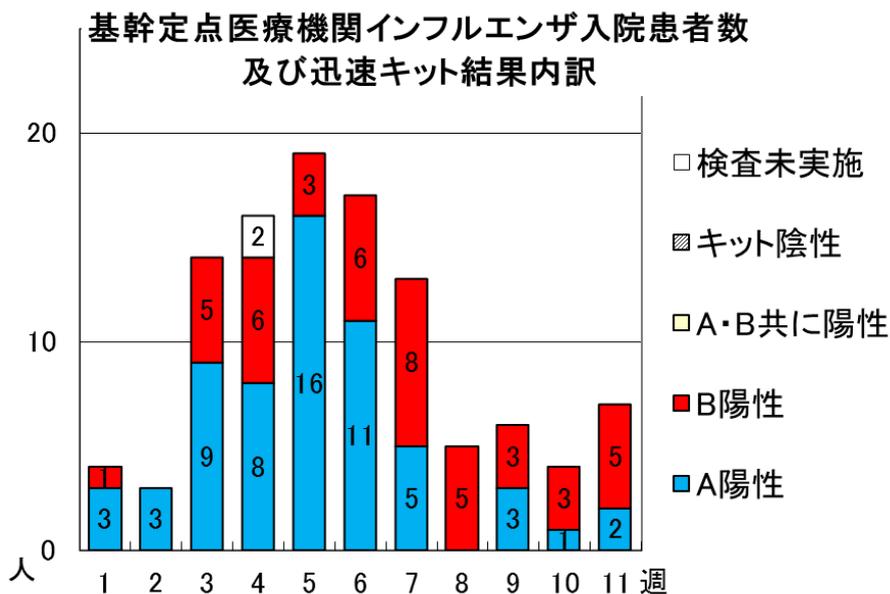
2 **迅速キット結果:**第9週以降A型、B型ともに減少しています。第11週はA型14.9%、B型85.0%、A型B型ともに陽性0.1%と、**さらにB型が占める割合が増えています。**



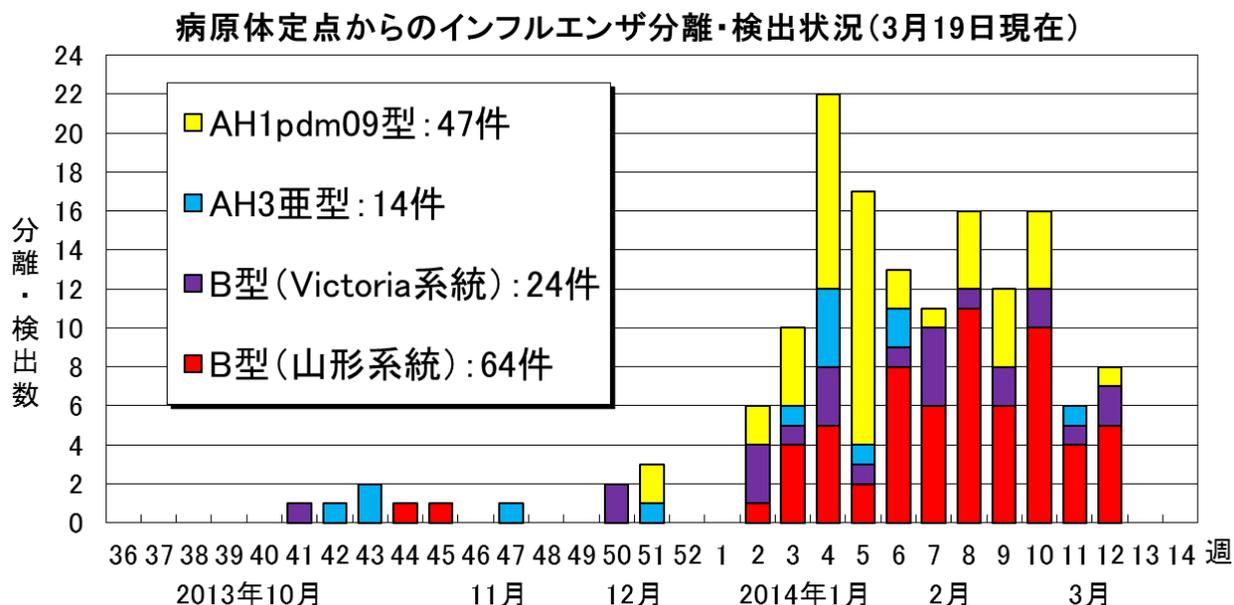
3 市内学級閉鎖等状況: 第9週以降減少が続いています。 第11週の施設種別では、小学校27件、幼稚園7件、中学校1件でした。



4 入院サーベイランス:
 基幹定点医療機関^{※3}における、インフルエンザ入院患者数は第10週に比べ第11週は3人増えました。迅速キットの結果では、B型の方が多くなっています。
 ※3 基幹定点: 患者が300人以上入院できる病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。



5 市内病原体検出状況: 第6週以降B型、特に山形系統が多く検出されています。なお、Victoria系統は今シーズンのワクチンに含まれていません。



6 分離株の耐性検査: 衛生研究所で **AH1pdm09 型の 74 株を検査したところ、耐性ミックス株 (275H/Y)**(注:薬剤治療中または治療後の患者の検体からは、薬剤により耐性が誘導された株と通常の株がミックスされたもの(耐性ミックス株)が検出されることがあります。通常はそのウイルスが地域で流行することはありません。最近話題になっている耐性株とは異なります。)が 3 株見つっていますが、**耐性株(275Y)は見つかりません。**ただ、耐性ミックス株を国立感染症研究所で検査したところ、3 株のうち 2 株では**オセルタミビル及びペラミビルへの感受性が低下**しており、ザナミビル及びラニナミビルに対しては感受性を保持していました。残る 1 株はオセルタミビル及びペラミビルなどへの感受性低下はみられませんでした。

7 区別流行マップ

